

【彙報】

②その他

愛知大学史シリーズ 講演会／昭和 30 年代から平成にむけての愛知大学を語る

愛知大学史シリーズ 講演会/昭和 30 年代から平成にむけての愛知大学を語るが、11 月 17 日（日）豊橋キャンパス本館 5 階の第 3、4 会議室にて開催されました。

愛知大学は 1946（昭和 21）年 11 月 15 に豊橋校舎に誕生しました。その後、昭和時代、平成時代を越え、2019 年 5 月 1 日からは新たな時代「令和」へと変遷しています。

愛知大学は、73 年間の発展の変遷において、名古屋への進出があります。まず 1949（昭和 24）年に東邦学園を借用することから始まり、1951（昭和 26）年に旧中京女子短期大学（現在の名古屋市東区筒井二丁目）を購入して名古屋移転拡張の礎ができました。その後、18 歳人口の増加と日本の高度教育のあり方が変化していくなかで、学内での活発な議論の後、1988（昭和 63）年に西加茂郡三好町に名古屋キャンパスを新設しました。そして、更なる本学の発展のために、2012（平成 24）年に名古屋市ささしまライブ地区に、新名古屋キャンパスを開設しました。

1988（昭和 63）年と 2012（平成 24）年の 2 度におよぶ名古屋キャンパスの移転は、本学大学史のなかで特質すべき顕著な事業といえます。三好への移転にかかわる当時の大学情勢を中心に「愛大の変遷を振り返る～昭和 30 年代から平成の時代～」と題して、愛知大学元理事で事務局長をなされた田岡鈺郎氏に、「愛大ささしま進出とその後の変化」と題して、川井理事長・学長に講演をいただきました。

【講演会の感想】

「愛大の変遷を振り返る～昭和 30 年代から平成の時代～」 田岡 鈺郎 氏

- ・ 良き時代の愛大を感じ取ることができた。①アカデミズム②リベラリズム③多様性こそが愛知大学の最も大切な存在価値であると改めて認識しました。
- ・ 愛知大学の長い歴史と苦労の程が改めて分かった。当時の関係者は随分と骨を折ったことが分かりました。
- ・ 転換期の内、三好校地取得の課題や新キャンパス大学開校の苦労が良くわかりました。
- ・ 70 周年と比べると 50 周年記念の募金は大学職員の協力が大きく、関心しました。
- ・ 大学の成長期の様子が詳細に語られ大変参考となり、とても感動致しました。今後こうした話を聞く機会は無いのではないかと思いますので是非テープに残していただき、一人でも多くの教職員に聞いて欲しいと思います。
- ・ 三好からささしまへの移転の経過がよくわかりました。先生方の挑戦している姿を学生たちも感じ伝わっていると思います。
- ・ 愛知大学が様々な困難を経て今日に至っていること、そこには教職員をはじめ関係者各位の並々ならぬ努力が感じられました。

- ・愛知大学創立から三好キャンパス開校までの変遷がよくわかりました。時代や政治などにも合わせて変化してきたことがわかる。
- ・大変な時代を乗り越えて現在がある事に感動しました。愛知大学の近くに住んで32年が過ぎます。豊橋に愛知という名前のつく大学があることに、地元の人間としてとてもすばらしい事であり、すごい事に感じます。今後も益々発展されていくことを期待します。
- ・名古屋地区への進出に対する「迷走」は愛知大学の発展に大きなブレーキとなったと思います。



【講演会の感想】

「愛大ささしま進出とその後の変化」 川井 伸一 氏

- ・愛知大学ささしま進出移転は画期的な事でした。将来性を考える上で非常に良い選択がされたと感じました。これからの地域貢献をはじめ愛知大学に期待します。
- ・ささしま移転効果は特に国際コミュニケーション学部・現代中国学部などグローバル志向を持つ学生募集に明確な効果が出ています。
- ・愛大の将来計画の裏表を理解できました。
- ・ささしまは人数が多すぎて、狭い感じがします。緑がないので精神的落ち着きを感じられないのが心配です。
- ・今後も教育・研究の改善、特に地域社会との協力をはかり、ブランド力の向上に努めてください。
- ・ささしま進出の内容が理解できました。特に予算・資金面について理解できました。名古屋市との相互理解を今後も続けていくように望みます。
- ・ささしま進出による愛知大学の効果は大きいと感じます。現在の高校生の志願者ランキング、イメージや難易度などよく理解できました。我々の時代とは異なる教育に対する今の学生の考え方について随分参考になりました。
- ・ささしま校舎への移転経過について記録に基づき詳しく説明され、現在の教職員に知ってもらいたい内容です。今後、1人でも多くの教職員に聞くチャンスを与えて欲しいものです。今後厳しさを増す大学競争を1人1人の教職員が当事者意識を持っていただく為にも、この経過を知っていただきたい。重要なことは、移転後の大学教職員の役割・使命を認識し、社会から評価される大学づくりであると信じています。